

第4回 民話めぐりウォーキングを体験して 語り継がれる入曽地区のお話

第4回民話めぐりウォーキングが、6月29日(金)に行われた。「あらら、今日は入曽公民館では何か催しがあるのかしら。人が多くいるけど」そんな思いで中に入って行く。広沢先生は、その人たちの中心でお話されている。

「うむ、ひよっとすると… 皆さん今日の参加者？」当たり前！今までの参加者は10人前後だったので、用意した資料が足りずコピーする。

出発前の広沢先生の巧みな話術に、これからの民話入曽めぐりにワクワクしてくる。広沢先生のお話の題も楽しい。



①さすらいの夢地蔵 → ②入曽の獅子舞 → ③としとらずの伝説 → ④ほりかねの井 → ⑤名主屋敷のおてんご様 → ⑥あずきばあさん → ⑦紅山王様 → ⑧化け地蔵 → ⑨ごしん山

夢地蔵の前で熱心に広沢先生のお話を聴く

実は、事前に広沢先生から資料をいただいており、その中で特に興味を惹かれていたのが「さすらいの夢地蔵」である。

『今から220年ほど前、地蔵さまは南入曽の大日堂に建立されたが小川の氾濫により地下に埋もれた。おばあさんの夢枕に立った地蔵さまは、地下から掘り出され元の場所に安置される。ところが寺の所有者が変わり地蔵さまは信州千曲川右岸に移る。更に左岸に移される。平成になりやっとのことで狭山の地に戻ってきてくださった地蔵さま』

県道を背にして立たれている「さすらいの夢地蔵」に会えた。よいお顔をしておられる。思わず手を合わせていた。さまよった220年の間に何を見てこられたのだろう。自然の美しさや驚異、人間の優しさや哀しさ愚かさ・・・そして今をどのように見ておられるのだろう。

「さすらいの夢地蔵」とは、広沢先生が命名されたそうだ。地蔵さまが人々に夢をかなえる夢地蔵と仰がれ、ふるさとの文化財として確かな位置を与えられるようにと。この「さすらいの夢地蔵」、広沢先生が「夢地蔵物語」として書いてくださる日も近いようだ。

書き物になって残っている史実やこんなことがあったんだよという聞き伝えから、長い間に語り継がれるお話へととなっていく民話。狭山にもたくさんのお話があるが、それを残していかなければいつかなくなってしまう。幸いなことに、狭山には語り継ぐことの大切さを思ってお話を集め本にして広めてくださる方がおられる。それらのお話をいろいろな場面で伝え、子どもたちがふるさと狭山に愛着をもつきっかけの一環となることを望んで、今後も民話を広める活動をしていきたい。

暑い中、今回9ヶ所を2時間30分かけて回った。お話を語ってくださった広沢先生、熱心に聴いておられた皆さんに感謝！

狭山の民話をひろめるプロジェクトチーム 小川 豊子

常任理事会便り

本年度の重点項目の一つとして、もっと文団連を市民に知ってもらい、参加団体を増やすことを掲げています。そのため、各種イベント時や文化サークルなどに配布できる、文団連の活動を紹介するパンフレットを作成します。常任理事会では能川副会長をリーダーとして、これを実行するプロジェクトを立ち上げ、来年2月の完成を目標として具体的な検討を始めています。パンフレット以外にも、いろいろなデジタルメディアを使った活動紹介も検討する予定です。

小川事務局長